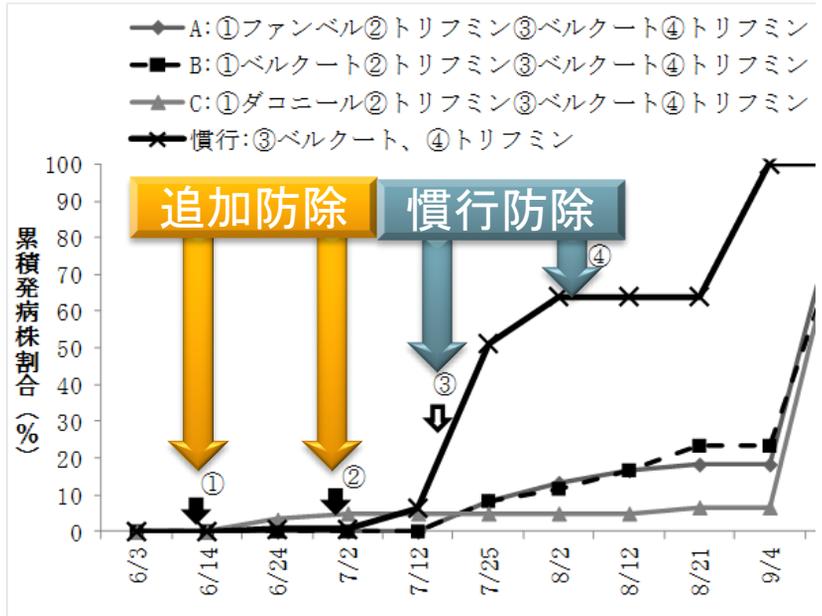


トマト栽培の大敵 すすかび病の効果的防除法



すすかび病の多発トマト



薬剤散布の防除効果

開発のねらい

岡山を代表する野菜の一つに、夏～秋にハウスで栽培するトマトがあります。ところが、最近すすかび病の発生が目立ってきたため、病原菌の感染時期や多発要因、薬剤防除時期などを明らかにして、効果的な防除方法を開発しました。

新技術の概要

- すすかび病発生圃場では、病原菌が資材に付着して次作の伝染源となります。
- すすかび病発生圃場の資材を更新したり消毒すると、伝染源量が減少し、発病を抑制できます。
- すすかび病の防除には、ファンベル顆粒水和剤やベルコートフロアブル、ダコニール水和剤、トリフミン水和剤などが効果的です。
- 夏秋栽培トマトでは、圃場内の環境が6月中旬以降感染しやすくなっています。慣行防除の前に6月中旬と7月上旬の防除を加えると、栽培後期まで発病程度を軽減できます。

活用場面

美味しいトマトを安定生産することで、岡山ブランドのトマトがますます食卓を賑わします。同時に農家経営も改善されます。